

1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日本のはるか東を北へ進んでいる。この低気圧を波源とするうねりの影響とアリューシャンの南から伝搬するうねりの影響が残り、北～西日本太平洋側と南西諸島では波が高くしている所がある。
- ② 高気圧が華北を東南東へ移動。日本付近に張り出している。
- ③ 東海道沖から伊豆諸島付近は気圧の谷となっている。
- ④ 500hPa 5280m以下の寒冷渦が-33℃以下の寒気を伴い、中国東北区付近を南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、18日にかけて日本のはるか東を北上する。この低気圧を波源とするうねりの影響や、アリューシャンの南から伝搬するうねりの影響で、波が高くなりしける所がある。北～東日本では18日にかけて、南西諸島では17日にかけて、西日本では16日は、うねりを伴う高波に注意。
- ② 1項②の高気圧は黄海へ移動し、17日朝までに不明瞭化する。また、16日夜までに、日本海で高気圧が顕在化して18日朝にかけて北～東日本付近に移動する。これらの高気圧に覆われるため、日本付近は晴れて昇温する所が多い。北～西日本の積雪の多い傾斜地では18日にかけて、なだれに注意。
- ③ 1項③の気圧の谷の周辺では、500hPa 5580m付近の浅いトラフや正渦度極大域の流入に対応して、16日夜までに伊豆諸島付近に低気圧が発生してゆっくり南東進し、18日朝までに不明瞭化する。また、1項④の寒冷渦は、17日は北海道付近を通過する。上空のトラフや寒冷渦、地上低気圧の影響で、曇りや雨となる所がある。また、低気圧周辺の下層暖湿気や上空寒気の影響で、伊豆諸島周辺や北海道地方では、大気の状態が不安定となる可能性があることに留意。
- ④ 500hPa 5700m付近の強風軸に対応して16日夜までに華中で前線が顕在化し、17日夜には前線上に低気圧が発生して18日にかけて西日本へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。西日本では18日は、落雷や突風、局地的には激しい雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①のうねりは、数値予報モデルの予想より波高が高い傾向があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島4、北海道・東海・四国・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。